

令和7年度
女性農林漁業者による経営改善等の
取組事例集



令和8年3月
山口県農林水産部農林水産政策課

はじめに

県では、「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」により、女性農林漁業者の経営力向上や働きやすい環境づくりを推進しています。また、各農林水産事務所及び下関農林事務所においては、管内の女性農林漁業者を対象に、地域女子会の開催やモデル経営体の育成など、女性農林漁業者の課題解決や経営発展に向けた取り組みを支援し、“女性が働きたくなる農林漁業”の実現を目指しています。

そこで、本事業を活用し、女性農林漁業者が主体となって取り組んだ経営改善や地域女子会での活動成果等を「女性農林漁業者による経営改善等の取組事例集」として取りまとめ、女性農林漁業者や経営者をはじめ、多くの方に広く発信することとしています。

今年度の事例集では、働きやすい環境づくりに向けた業務環境の改善や SNS を活用した情報発信力強化の取り組み、マルシェ開催等による販売力強化などについて紹介しています。

経営改善等のアイデアやポイントが詰め込まれた本事例集が、女性やみんながいきいきと働き活躍する農林水産業の職場環境づくりに向けた取り組みの参考となれば幸いです。



令和7年度作成パンフレット



令和7年度「働きやすさ」をつくる経営改善研修会

目 次

【岩国農林水産事務所管内】

- 女性が働きやすい職場作りに向けて . . . P 1
(合同会社 source 山崎心結)
 - 地域に求められる商品づくりで収益UP . . . P 3
(双子の菓子店 山田景子・山田葉子)
-

【柳井農林水産事務所管内】

- デザインツールの活用で効果的な情報発信 . . . P 5
(柳井・大島地域農業女子会)
-

【周南農林水産事務所管内】

- 就農2年目からスタートしたカイゼン！日の出農園リブランディングの第一歩 . . . P 7
(日の出農園 藤村明日実)
 - 調製場所を快適に！効率的に！ . . . P 9
(宮崎美由紀)
-

【山口農林水産事務所管内】

- GAPの考え方を取り入れた農場の環境改善 . . . P 12
(農事組合法人二島東 藤岡美詠子)
-

【美祢農林水産事務所管内】

- GAPの視点にたった現場の改善活動 . . . P 13
(まこっこ農園 才木祥子)
 - SNSを使った情報発信の強化 . . . P 15
(宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ実行委員会)
-

【下関農林事務所管内】

- 研修で育め！家族の片づけ意欲 . . . P 17
(野村農園 野村みゆき)
-

【長門農林水産事務所管内】

- 農事組合法人における6次産業化推進 . . . P 18
(農事組合法人おのじ営農組合女性部)
-

【萩農林水産事務所管内】

- マルシェがきっかけ！販促・情報発信ツールを楽しみながら作る！ . . . P 20
(阿武萩地域ステキ女子会)
-

女性が働きやすい職場作りに向けて

- 屋号・法人名等 合同会社 source
- 氏名 山崎心結
- 所在地 岩国市
- 生産品目 水稲、作業受託、アスパラガス、タマネギ
トウモロコシ
- 就農年 2025年



○取組のきっかけ

日々の作業の中で、女性がより働きやすい環境づくりを意識するようになりました。特に、整理整頓が行き届いていない倉庫や、母屋の土間を調製室として使用していることなどが気になり、思い切って片付けと改修を実施。GAPを意識した調製室の改修をきっかけに、より安全で快適な職場環境を目指すようになりました。

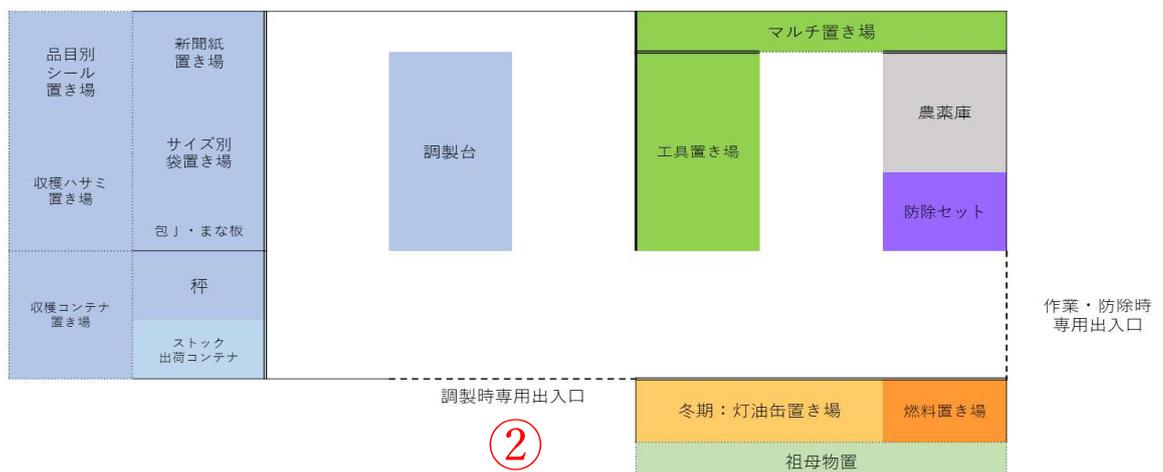
○取組の内容

以前は物置として使われていた倉庫を、作業性の向上と食品安全の確保を目的に改善しました。まず、現状を把握するために倉庫内のレイアウト図を作成し、GAPで重要な食品安全・労働安全の観点から動線を検討。改善後のイメージを明確にしたうえで、倉庫内を整理・清掃し、内部を空の状態にしました。

片付けの過程で、壁の劣化やネズミの穴、砂が舞う不安定な床などの問題を発見。これらはGAPにおける食品安全の管理ポイントに該当するため、修繕を実施しました。壁には清掃しやすくメンテナンスも容易なプラ板を使用し、異物混入を防止。床とネズミ穴にはコンクリートを施し、衛生的で安全な環境を整えました。また、交差汚染を防ぐために出入り口へ掲示を行い、調製作業以外の目的での立ち入りを禁止。調製エリアとその他のエリアを明確に分けることで、より徹底した衛生管理を実現しました。

最後に、改善したレイアウト図に基づき作業台や機材を配置。これにより、整理整頓された使いやすい調製室が完成しました。

◇調製室のレイアウト





① 収穫コンテナ置き場



② 調製時専用出入口

◇倉庫の改善の流れ



改善前



整理後



改善後

○効果

倉庫を整備したことで、以前のように食品安全や労働安全、異物混入のリスクを心配する必要がなくなり、衛生的で安心して作業できる調製室となりました。

この取り組みを通じて、女性を含むすべての作業者が快適に働ける職場環境づくりが進むとともに、会社全体での改善意識も高まりました。

倉庫改善をきっかけに、GAP への意識も一層高まり、安全で持続可能な生産体制の実現に向けた基盤が強化されました。

○今後の活動に向けて

今回は調製室の改善を行ったので、今後は運用面でのルールづくりにも力を入れていきます。調製室内での衛生管理や入室条件、作業手順などについて明確なルールを定め、全従業員が共有できる体制を整える予定です。

また、外部から来訪する作業者などに向けて、調製室で守るべき注意点をまとめたマニュアルや案内文書を作成し、入室前に説明・掲示することで、交差汚染防止や食品安全の意識徹底を図ります。こうしたルール整備とマニュアル化を進めることで、誰が作業しても同じ水準の衛生管理が保たれる調製室運営を目指し、JGAP 認証取得に向けて体制を整えていきたいです。

地域に求められる商品づくりで収益 UP

- 屋号・法人名等 双子の菓子店
- 氏名 山田景子・山田葉子
- 所在地 岩国市
- 生産品目 菓子加工、ブルーベリー
- 就農年 2013年



○取組のきっかけ

私たちが生まれ故郷の錦町に戻って、加工原料用の野菜や果物を栽培しながら、お菓子作りに取り組み始めて、10年になります。

これまで、シフォンケーキやクッキーなど独学で学び、商品開発を行ってきました。商品は、地元の直売所で販売したり、誕生日などの記念日ケーキの注文販売やステキ女子マルシェに参加して対面販売に取り組むなど、徐々に地域のみなさんに知られてくるようになりました。

そうした中、錦町に唯一あった和菓子屋さんが高齢のため、お店を閉じることになり、ご高齢のお客様から「あんこのお菓子を作って欲しい」というご要望を受けるようになりました。その声に応え、未経験だった和菓子作りに取り組みました。

○取組の内容

(1)和菓子アイテムの検討

地元からの要望は手土産となる和菓子であったので、本やインターネット等で和菓子について情報収集し、あんこを使った上品な和菓子である上用饅頭を候補としました。基本的な技術習得を目指すとともに、商品に特徴をもたせるために野菜あんや麴あんの検討も行うこととしました。

(2)農山漁村女性活躍支援アドバイザーによる技術指導

上用饅頭の基本的な加工技術を学ぶため、農山漁村女性活躍支援アドバイザーによる技術研修を受けました。

講習では、基本的な加工方法を学ぶとともに、商品化に際し考慮すべき点(日持ちや採算性、商品の均一性の容易さなど)について助言を受け、商品開発の方向性が定まりました。



カボチャあんの試作



作製手順の説明



材料の違いによる比較



焼き饅頭試作

(3) その後の商品開発の状況

自分達で何度も試作を重ね、日持ちを良くするために焼き饅頭も検討しましたが、食感が固くなり過ぎるため、当初の目標どおり蒸して作る上用饅頭での試作を重ねました。

試作品を地元の方たちに試食してもらったところ、味については好評でしたが、日持ちしないためお土産として販売しづらいという意見もあったことから、日持ち性を向上させるため、包装方法の検討をしています。

○効 果

材料に青果を使う場合に必要となる生地の水分量調節方法を学んだことで、作製できる菓子のバリエーションが増えました。

材料や作製方法の違いによる作業量についての知見が深まり、製造における労力等の採算性を深く考えるようになり、経営感覚が向上しました。

○今後の活動に向けて

今後も引き続きお土産となる和菓子の商品開発に取り組めます。

また、錦町にはパン屋がないため、新たなビジネスチャンスとして米粉パンなどのパン作りにも取り組み、私たちの特技を活かした地元の方たちの“困った”の手助けになりたいと思っています。

錦町では、地域を盛り上げようと頑張っている人がたくさんいて、食堂やカフェなども少しずつ増えています。私たちも、地元の方や錦町を訪れたみなさんが休憩できて、お茶とケーキが気軽に楽しめるカフェや、私たち世代が夜に集まって、夢を語り合える角打ちのようなカフェバーを開きたいと思っています。

デザインツールの活用で効果的な情報発信

- 氏名 柳井・大島地域農業女子会
○所在地 柳井市、周防大島町、上関町、
田布施町、平生町



○取組のきっかけ

柳井・大島地域農業女子会では、これまでの取組や経験を活かし、マルシェへの出店、応援企業とのコラボイベントへの参加、SNSを活用した情報発信、インターネット販売等、それぞれが積極的に活動しています。

このような中、今年度は複数のメンバーから「POP やプライスカードを作る時に毎回悩む」「上手に情報発信して、もっと農園や商品を知ってもらいたい」「Canvaを使ってどんなことができるのか知りたい」などの声が上がりました。

そこで今回は、インスタサポートコーチとして県内外で広く活躍されている シュガーアトリエ 代表中村奈緒子さんをお招きし、POP やパンフレット、SNS への投稿画像等を作成する際に最も重要な自農園のブランディングについて学ぶとともに、商品や農園の魅力など、自身が伝えたい情報を効果的に伝えるツールとして Canva の上手な使い方を学び、企画力や情報発信力の向上に取り組むこととしました。

○取組の内容

テーマ 「Canva の効果的な使い方」 ～紙と SNS をつなぐ発信設計～

- 目標
- ① 自分の事業の「軸」を言語化する
 - ② 紙とSNSをつなぐ「統一ルール」を決める
 - ③ Canvaで実際に1つ形にできるようになる
 - ④ 明日から整えられる“具体的改善点”を持ち帰る

(1) 課題の共有

最初に、自身の経営と今回の講座で学びたいことを紹介し合い、日頃のPOP やパンフレットの作成、SNS への投稿など、発信したい情報の編集やデザインに関する疑問や悩みを共有しました。

「SNS に投稿する動画や写真の作り方を知りたい」「情報発信のコツや方法を学びたい」「広告の作り方を知りたい」「写真だけになっているSNSの投稿を統一感のあるデザインにして上手に投稿したい」「ただなんとなく投稿している SNS の情報発信をどうにかしたい」「目を引くチラシや POP、SNS 投稿を作る秘訣を知りたい」などの声がありました。



【講義の様子】

(2) 講義

講義では、効果的な情報発信をするためには、自農園のブランディングが重要であることが説明されました。

自農園の商品を誰に買って欲しいのか、どんな理由で選ばれたいのか、どんな印象を持って欲しいのかなど、まずは、自分の事業の軸を確認し、言語化することが大切であることを学びました。

さらに、自農園の商品を選んで欲しい相手(ペルソナ)にあわせて、相手が好み、選びそうな色やフォント、写真のベースカラーを決めて発信する情報を構成し、すべての媒体で印象を統一した「一貫性」で、信頼感を生み出すことが大切であることも学びました。

(3) 実習

実習では、グラフィックデザインツールのCanvaを実際に使って、名刺作成や SNS への投稿画像を作成しました。

Canvaは無料版であってもいろいろな機能や特徴を備えていて、スマホ一つでも様々な編集ができることを知り、参加メンバーも熱心に取り組みました。



【実習の様子】

(4) 個別相談

個別相談では、希望者が、これまでに投稿した SNS の投稿等について、講師からアドバイスをいただきました。

○効果

参加メンバーそれぞれが、自農園の事業の軸を明確にし、言語化することの大切さに気付くことができました。また、今年度、新たに女子会に加わったメンバーも参加し、相互の交流を図ることができました。

○今後の活動に向けて

研修終了後には、「とても参考になった」「参加して良かった」「有意義だった」「まずは事業の言語化から取り組みたい」などの感想がありました。また、「次は今回学んだことを活かして作成したものの添削や、アドバイスをいただく研修がしたい」との声もあり、次の取組に活かしていきます。

女性農業者が農業や暮らしを営みながら、それぞれの地域で自分らしくいきいきと活躍していくためには、わかりあい支え合える仲間が存在や、応援してくれる地域の方々、お客様とのより良い関係づくりに加え、それぞれの経営体において自分自身の意欲や興味がある部門で楽しみながら、能力や役割を十分に発揮できることがとても大切です。

柳井・大島地域農業女子会では、今後もメンバーの「学びたいこと」「取り組みたいこと」を大切にしながら、それぞれの経営にプラスとなるような研修を実施していきたいと思っております。

就農2年目からスタートしたカイゼン！日の出農園リブランディングの第一歩

- 屋号・法人名等 日の出農園
- 氏名 藤村明日実
- 所在地 周南市
- 生産品目 梨、ぶどう
- 就農年 2023年



○取組のきっかけ

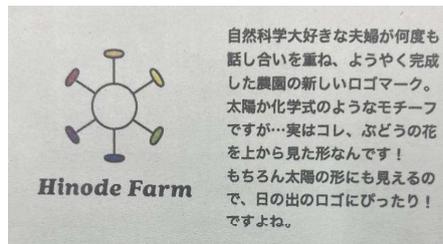
夫と共に2023年に就農。将来はワイナリーなどの多角経営をめざしている。

やまぐち農林漁業ステキ女子に登録し、須金ぶどう組合の女性が「働きやすい作業場づくり」に取り組んでいることを知った。就農後、観光農園の経営を1年行い、課題が見つかったので就農2年目の時に、夫と共に、働きやすく、効率的に働ける職場づくりに取り組んだ。

○取組の内容

(1) 日の出農園リブランディング(継承した農園→自分たちが目指す農園イメージに)

- ① ロゴの作成
- ② パンフレットの作成



③ 店頭幕の作成

新イメージのアピールと、「ここが観光農園だよ！」ということがわかるよう、店頭幕を作成し、設置した。また、日よけ対策としての効果も狙った。



店頭幕

④ 木製フェンスの増設

ワイン園をイメージしたフェンスを毎年増設中



フェンス

(2) 働きやすい環境づくり

【直売所】

- ・シーズンには、作業台が、「観光」、「配送」、「直売」の商品でいっぱいになるので、カウンターとテーブルの間にテーブルを1つ追加した。
- ・お客様の商品が混ざらないよう可動式のテープを設置した。



可動式テープ



追加した机

- 直売所内でお客様が渋滞してしまっていたので、配置や動線を見直し、直売所内にあった応接セットを排除した。また、待ち時間のあるお客様はデッキへ誘導することとした。
- グループで来客されるそれぞれの人数に対応するために、ぶどう園が見える一列はカウンター式とし、その内側はグループで座れる大きめのテーブルと椅子を配置した。



グループ用大テーブル

- 観光シーズンは特にお客様からの質問が多く、対応に時間がかかっていた。そこで、「受付」、「発送」などの表示を上からつらし、どこで何ができるかわかるようにした。

表示



- Faxやメールの確認ができないお客様の対応に苦慮していたが、LINE公式アカウントを開設し、注文できるようにした。

- 観光、配送商品の清算まで、お客様の待ち時間が発生していた。待ち番号カードを発行し、お互いが混乱なく過ごせるようにした。待ち時間に試食品を提供し、デッキで時間を過ごしていただくシステムにした。



待ち番号カード

【調製場所】

- 暗くてぶどうの傷などに気づきにくかったので、電球をLEDに交換した。
- 作業道具置き場が遠くて不便だった。つい近くに置いたり、ポケットに入れたりして行方不明になることがあった。そこで道具置き場は、みんながアクセスしやすい場所に変更し、各道具の収納場所を決め、表示した。これにより、道具の紛失がほぼなくなった。



道具置き場

○効果

- スタッフのフットワークが軽くなった。また、アイデアが出やすくなった。変えてみようのハードルが低くなった。
- 改善意識が常にあり、スタッフ含め、意見が言いやすい雰囲気となった。組織全体で改善に取り組みやすくなった。
- シーズン中の気づきを、シーズンオフの改善につなげていきたいと思うようになった。

○今後の活動に向けて

- 就農して3回目のシーズンを終え、生産、お客様対応にもだいぶ慣れてきた。気づきを改善につなげる行動の積み重ねでこれからの経営も楽しみになってきている。
- 様々な気づきをみんなで話しながら、改善を繰り返し、快適に働くことのできる環境づくりを実現することができた。
- 今後は、GAPの視点も入れながら、農園の農作業安全対策を引き続き講じていきたい。(機械作業、熊の出没、人身被害防止対策、高所での作業他) また、スタッフの環境改善に取り組んでいきたい。(個人ロッカー、休憩室など)。
- 継続して改善に取り組んでいきたい。

調製場所を快適に！効率的に！

- 氏名 宮崎美由紀
- 所在地 周南市
- 生産品目 いちご・ブロッコリー
- 就農年 2017年



○取組のきっかけ

- 慎重に果実を扱うため、調製作業に時間がかかることは仕方がないと思っていたが、作業のしづらさはずっと感じていた。
- そんな時に、農業女子研修会で須金ぶどう梨生産組合女性部の改善の取組を見せていただき、自分もできたらいいなと思っていた。
- どう取り組めばいいかわからず、しばらく取り組めなかったが、普及指導員への相談や専門家のアドバイスで、一歩踏み出すことができた。

○取組の内容

就農後ずっと気になっていた調製場所を快適な場所に変えたいと思い、専門家の指導を受け、また職員の皆様の協力も得て、夫婦で作業場の大改革に取り組んだ。

(1) 整理整頓

① 不要なモノと必要なモノの仕分け

不要なモノは排除。必要なモノは容器に同類でまとめ、テープに道具の名前を書き、誰が見てもわかりやすくした。

② 掃除

長年、触れなかった場所の清掃をした。

調製スペースはハウスなので、施設裾から、草が入り込んでいたが、それもすべて除去した。

③ モノの置き場の決定

道具の使用頻度、大きさ、使い方を考慮して、道具の置き場を決めた。



【Before】



【After】

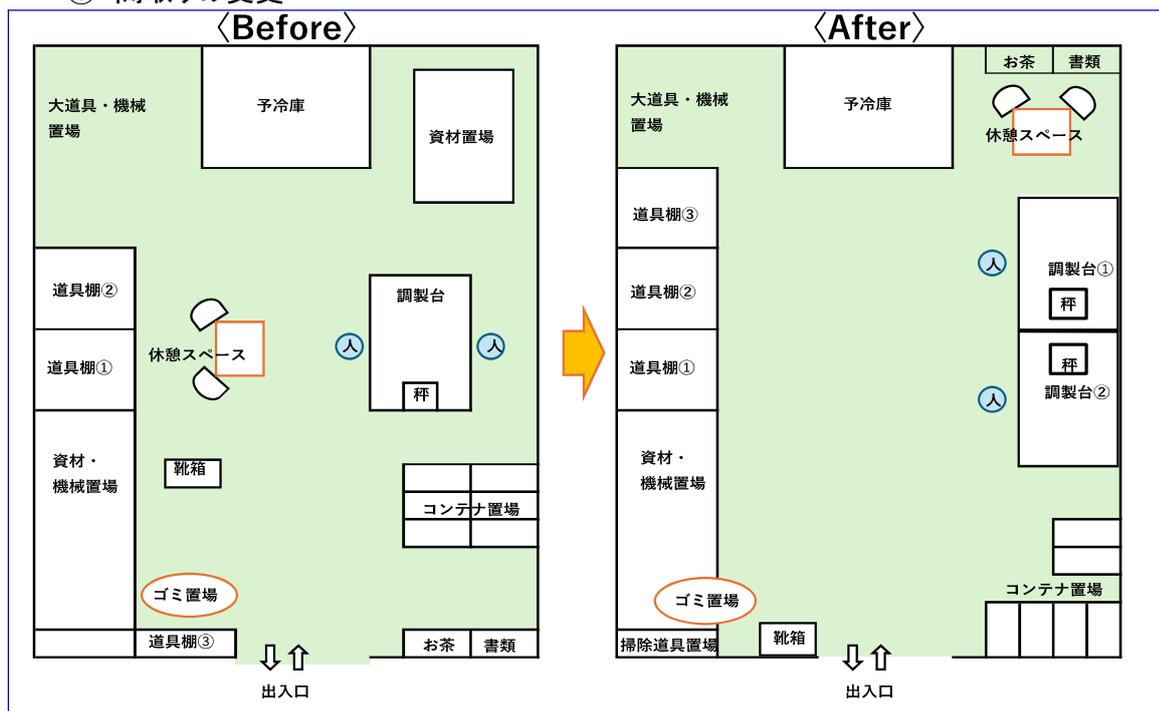


④ 掃除のルール化

使ったらもとに戻す。(その時戻せなかったら“一旦置き場”に)
「汚れたらすぐきれいに！」を夫婦のルールにした。

(2) 効率や体への負担減を考慮した調製場づくり

① 間取りの変更



② 調製台を1台から2台へ。秤も1台から2台へ

【Before】2人が向かい合い、1台の調製台と秤で作業をしていた。スペースが狭く、台の上に置くことのできるコンテナ数が限られ、また秤を使うタイミングが重なり、待ち時間もあり、結果的に時間がかかっていた。

【After】 台を2台にし、2人が横並びで作業をすることにした。コンテナも必要数置くことができ、秤も1台追加することで、それぞれが自分のペースで効率よく調制作業ができるようになった。

【Before】



【After】



③ コンテナの配置場所変更

【Before】 よく使うコンテナだが、入口付近の動線の妨げになっていた。

【After】 置き場を変えたことで、出口から近くなり積み下ろしがしやすくなった。また床面を底上げし、作業性と衛生面を改善した。

【Before】



【After】



④寒さ対策

作業場のサイドのビニールを固定し、隙間を封鎖し、発泡スチロールを敷き詰めた。
これにより、特に冬場の寒さが緩和した。

【Before】



【After】



⑤照明改善

作業場が全体的に暗かったので、照明を2つ増設した。
手元の照度が160ルクスから700ルクス以上になり、いちごの品質確認のしやすさ、目の疲れの軽減、作業効率の改善につながった。

【After】



○効果

- 片づけることで、施設も気持ちもすっきりしている。作業効率が上がり、ストレスがなくなった。
- 収納場所が一目でわかるので、片付いた状態が継続できている。(定着した)
- 見つからない道具は仕方なく購入していたが、今はそれがなくなった。
- 整理整頓を経て、さらなる問題も目に付くようになり、寒さ対策にも取り組んだ。例年より快適に冬の作業をこなすことができた。
- 調製台や秤の増設で、時間当たりの処理量が2割増えた。

○今後の活動に向けて

- 夫婦ともに、取り組んでよかった！というのが一番の感想。身近なことでちょっとしたことばかりだが、ちょっと頑張れば大きく変わることが体感できた。
- ゴミステーション設置、ほ場までの凸凹の軽減、雑草対策など、気になることがまた出てきたので、少しずつ取り組んでいきたい。

GAP の考え方を取り入れた農場の環境改善

- 屋号・法人名等 農事組合法人二島東
- 氏名 藤岡美詠子
- 所在地 山口市
- 生産品目 水稲、小麦、タマネギ、キャベツ
- 就業年 2019年



○取組のきっかけ

令和7年度の「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」第1回目の受講をきっかけに、GAPの考え方を取り入れた経営改善について関心を持った。法人理事も第2回目を受講して一緒に学んだ。

その結果、かねてから課題となっていた施設整備や施設内の整理整頓などを理事と共通認識をもちながら進めていった。

○取組の内容

- ・GAPの考え方を取り入れた経営改善に詳しいセミナー講師による現地指導において、事務所や倉庫、ほ場等について、外部から見た現状を客観的に捉えた指導を受けた。
- ・講師からの指摘事項を場所ごとにすぐに対応すべきことと今後改善を検討すべきことに整理し、一覧表にとりまとめた。作成した一覧表を定例のミーティングで報告し、法人内で共有した。
- ・農場内の環境改善事項の中から、目に見えて効果が高く緊急性のあるものについて法人内で検討した。その結果、今年度は男女別のシャワー付き更衣室・トイレ・休憩室の整備と燃料タンクの整備、キャベツの収穫・出荷調整作業マニュアルの作成を行った。



【GAPに沿った現地指導の様子】

○効果

- ・女性従業員のセミナーへの参加を契機として、法人理事3名がJGAP指導員資格を取得した。それによって、セミナーで進めるGAPの考え方を取り入れた経営改善についての理解が深まり、法人全体で環境改善を進めていくスタートラインに立った。
- ・改善項目については優先順位をつけて、いつ頃までに実践していくかを目に見える形で取りまとめることにより、今年できること、来年以降取り組むことが明確になった。

○今後の活動に向けて

- ・キャベツの作業マニュアルについては、絵や写真等を入れて分かりやすいものにバージョンアップしていくとともに、他の品目のマニュアル作りも進めていく。
- ・改善項目の一つとして農薬保管庫の設置があり、近隣で先進的にGAPに取り組んでいる法人の現地研修を行う。

GAP の視点にたった現場の改善活動

- 屋号・法人名等 まこっこ農園
- 氏名 才木祥子
- 所在地 宇部市
- 生産品目 白ネギ、ミニトマト、スナップエンドウ、ホウレンソウ
- 就農年 2009年



○取組のきっかけ

就農して16年目を迎え、経営を見直したいと思い、県の「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」を受講しながら、GAPの考えを取り入れた経営改善に取り組んだ。

特に、これまで改善の気持ちはあってもなかなか着手できなかった農薬管理について、作業員の安全や子どもの危険回避の面から、整理整頓と管理の仕組みづくりに重点的に取り組むこととした。

○取組の内容

「GAPする」という視点にたち、事故を防ぐことを前提とし、農薬保管の原則である「盗難防止」「誤使用防止」「混入汚染の防止」の観点から対策を講じた。

(1) 農薬庫の整理

- ①農薬を保管している倉庫は、扉がなく、施錠できない条件も踏まえ、対策を検討した。「混入汚染防止」の観点から、倉庫の左側が農薬関係、右側が肥料関係にエリア分けし、資材や道具の場所を移動、配置した。

<Before>



農薬と肥料と資材が混在し、使いかけの肥料の袋が開いたまま

<After>



左側が農薬関係、右側が肥料関係にエリア分け

- ②農薬庫から全ての農薬を取り出し、使用期限や数量を確認し、一覧表に整理し、必要なものと不必要なものに分別した。使用用途別に分類し、保管庫に保管することにした。保管庫に入りきらなかった大型の農薬は、「盗難防止」の観点からシートをかぶせ、毒劇物は「医療外劇物」「医療外毒物」のシート貼ったBOXに入れ、施錠した。

<Before>



農薬庫を施錠しておらず、農薬庫の外にも農薬を保管

<After>



使用用途別に保管し、施錠液漏れを防ぐため、プラ製容器に収納

(2) 在庫管理表の作成

農薬及び肥料の在庫管理表を Google スプレッドシートで作成し、共有しやすい仕組みとした。

<農薬の在庫管理表>

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I
殺虫・殺菌	農薬名	分類コード	成分名	未使用	使用期限	使用済	使用期限		
虫	アディオン乳剤	3A	ベルメトリン (含ビレ)		1	23/10			
虫	アニキ乳剤	6	レピメクチン			1	28/10		
展着剤	アピオンE					1	26/9		
虫	アフームエクスラ顆粒水和剤	6 15	エマメクチン安息香酸塩 ルフェスロン	2	23/10 28/10				
虫	アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩			1			
菌	アフエットフロアブル	4A 7	ベンチオピラド			1	27/10		
虫	アベル粒剤	4A 2B	アセタニプリド シアントラニリプロール						
菌	アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン						
菌	アミスターオブティフロアブル	11 M5	アゾキシストロビン TPN						
菌	アリエッティ水和剤	P 7	ホセチル	2	27/10	1	22/10		
虫	アルハイン顆粒水和剤	4A	ジノテフラン			1	24/10		
草	アレイルS C					1	?		
虫	ウララDF	29	フルミカミド	1	29/10				
虫	エミリア					1	23/10		
菌	オリゼート粒剤	P2	プロベナゾール	17		1			
菌	オロンディスウルトラ	49	オキサチアピロリン マンジプロバミド			1	26/10		
菌	オンリーワフロアブル			1	24/10				
草	カワツツルエナジー					1	23/10		
虫	カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン			1	27/10		
菌	カップサン水和剤	24 M01	カスガマイシン 塩基性塩化物			1	27/10		
草	カネマフロアブル		インフルフェルキヤム			1	23/10		
菌	カリグリーン	NC (不明)	炭酸水素カリウム			1	24/06		
菌	カンタスドライフロアブル	C2	ボスカリド						
菌	クプロシールドフロアブル		塩基性硫酸銅			2	24/10 26/10		
虫	グレース乳剤	30	フルキメタミド			2	29/10		

<肥料の在庫管理表>

1	A	B	C	D	E
保管場所	肥料名	未使用	使いかけ		
作業部屋	ベジカルエース				
	健倍バイトル	5	1		
	共生菌				
	パワー酵素	18	2		
	ネオカルオキソL3	5			
	バイオ2.1	11	1		
	バイオルビネガー	7			
	バイオルマンEX200	46			
	ベジカルスペシャル	11	1		
	ペンタキープ				
	ミラクルSe				
	ハンチャープロB	18	2		
	鉄ホトレプラス		1		
	OKF 3	1			
	ビューラックスS	1			
	タンクミックス	1			
	ベジカル北海道スペシャル	6			
	本橋にがり		1		
	木酢液		1		
	マイコジェル		1		
	ボンバルディア		1		
外	サラットC a	59	1		
	バイオル化成	52			
	カルシウムのかまくらプラス	32			
	レッド&グリーンEX	1			
倉庫内	純糞カリ		1		
	ハワフルマグ		1		

○効果

- ・GAPの視点から、農薬庫を整理整頓したことで、事故や盗難の心配がなくなり、動線の確保や探す時間の短縮に繋がった。
- ・農薬と肥料の在庫管理のしくみができ、在庫を確認した上で購入量を調整できるようになった。

○今後の活動に向けて

今回、GAPの視点で取り組んだことで、作業効率や使いやすさがUPし、安全で働きやすい環境となり、心の余裕につながった。管理のしくみを改善しながら、継続していくとともに、引き続き、GAPの視点も取り入れた改善に取り組んでいきたい。

SNS を使った情報発信の強化

- 氏名 宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ
実行委員会
- 所在地 宇部市、美祢市、山陽小野田市



○取組のきっかけ

令和5年度から、生産者と消費者を直接つなぎ、取組や商品の認知度向上、新たな顧客層の開拓やニーズの把握、地産地消の推進等を目的に、宇部市・美祢市・山陽小野田市のステキ女子が中心となり、「宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ」を開催している。

昨年度から、「宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ」の Instagram を開設し、マルシェの告知や出店者を紹介した。今年度は、マルシェへの集客や各経営体の認知度アップに向け、効果的な情報発信に取り組むこととし、管理方法についても検討した。

○取組の内容

(1) Instagram の管理

- ・これまで、実行委員2名がアカウントを管理してきたが、管理の負担軽減や迅速な情報発信に対応できるよう、実行委員5名をアカウントの管理者として設定した。投稿する際や問い合わせに対応する際は、作成者以外の実行委員のいずれかのメンバーが確認後、投稿、対応するルールとした。
- ・雨天時の会場変更等、最新情報の発信や、ラジオや広報誌等の問い合わせ先も Instagram で対応した。

(2) Instagram での情報発信内容

時期	内容		備考
約2か月前	開催決定	実行委員会で決定	
約1か月前	開催告知		リール動画
約20日前	チラシ		
約2週間前	雨天時の会場案内		
10日～1週間前	出店者の紹介	出店者を個別に紹介(農園、商品)	
2日前	雨天時の会場変更	山口宇部空港ふれあい公園(屋外) ⇒国際線ロビー(屋内)に変更	
当日	会場の様子	準備、出店者、商品の様子	リール動画
翌日	実施報告	来場、協力へのお礼	

- ・出店者の紹介では、Instagram 掲載用の写真(商品、農園・畑の風景、農作業の様子、収穫物等の写真、あればロゴマークやInstagramのQRコード等)を LINE で実行委員に提出。農園ごとに、写真(4~6枚)と、農園や販売予定の商品、PR コメントを投稿した。

<Instagram 投稿写真等>



開催決定



雨天時の会場案内



雨天時の会場案内



会場変更



出店者の紹介事例(「ごろうのはたけ」)のロゴマーク、栽培風景、農産物、加工品

○効果

- ・Instagram を実行委員全員で管理できるようになり、最新情報をリアルタイムに発信できた。
- ・出店者を写真やロゴマークを含めて紹介することで、より効果的に PR でき、出店者の意欲や自信に繋がった。

○今後の活動に向けて

- ・来年度のマルシェに向け、県内外のマルシェの情報収集をしながら、物産展や一過性の PR ではなく、マルシェだからできることや目的を整理しながら、内容の充実、世代を取りこぼさない効果的な情報発信に取り組みたい。
- ・農林漁業者同士の輪を広げ、農林漁業従事者だからこそ伝えられる情報や、ステキ女子の活躍も発信していきたい。



研修で育め！家族の片付け意欲

- 屋号・法人名等 野村農園
- 氏名 野村 みゆき
- 所在地 下関市
- 生産品目 オリエンタルユリ、トルコギキョウ等
- 就農年 平成 28 年(2016 年)



○取組のきっかけ

過去にステキ女子会で法人を訪問した際、整理整頓による労働環境の改善に感銘を受け、自身でも取り組んでみたいと考えたことがきっかけです。自分だけでなく、家族全員で研修を受けることで、片付けの意識を共有したいと考えました。

○取組の内容

全3回のアドバイザー研修(R6.12、R7.4、R8.1)を受け、資材ハウス内の環境改善に着手しています。

第1回は整理収納の基礎講義から始まり、その後、資材ハウスへと移動して現場指導を受けました。事前に私たちの考える整理収納の方向性や要望についてまとめることで、スムーズに進めることができました。

第2回、第3回は前回の指導による改善状況の報告や、新たにできた課題の相談等を行い、整理状況の改善に努めました。



研修での指導風景

○効 果

資材ハウス内の動線が確保された結果、内部へ軽トラでの進入が可能となり、ハウスの被覆資材や肥料袋等の重量物の運び出しが簡単になりました。また、農具やパッカー等の保管場所がはっきりとしたことにより、パートさんから「保管場所が分かりやすくなった！」と好評です。

家族内でも、なるべくきれいな状態を保とうという意識が生まれていることを感じています。

○今後の活動に向けて

労働環境の整備は今後も継続し、より良い環境を作っていきたいです。

また、現在は家族以外の作業員の作業効率向上のためにマニュアル作成を行っており、雇用を前提とした経営改善に向けた取り組みへ着手しています。



〈Before〉



〈After〉

農事組合法人における6次産業化推進

- 屋号・法人名等 農事組合法人おのじ営農組合女性部
- 氏名 MK ※氏名イニシャル
- 所在地 長門市
- 生産品目 露地野菜
- 就農年 2018年



○取組のきっかけ

(農)おのじ営農組合(平成27年3月設立)は、水稻・麦・黒豆・すいか・露地野菜を生産しています。このような中、平成30年に法人代表から女性中心で野菜栽培をしてみないかとの呼びかけがあり、雇用者の冬場の仕事づくりも考慮して、野菜(たまねぎ・キャベツ等)栽培の試行を開始しました。

その後、令和4年度に女性部が正式な部会として発足し、女性部が中心となり、露地野菜を中心に30品目を栽培していますが、どうしても規格外や販売余剰が発生するため、生産物を有効に活用し、農業所得の向上を目指すとともに、製造・加工(2次産業)やサービス業・販売(3次産業)にも取り組む6次産業化推進に向けて検討を開始しました。

○取組経緯 令和6年度

加工品の試作開始

これまでの販売先は地元直売所が中心となっており、出荷量が多くなると売れ残りが発生することがあります。そこで、新たに「道の駅センザキッチン」等で販売を行うため、日持ちする加工品を開発することとしました。加工品の開発にあたっては、品目数を多くすることが重要と考え、新たにサツマイモや黒豆等、加工品の試作を開始しました。

○取組内容 令和7年度

①商品開発に向けた試作

6次産業化支援施設ながとラボと連携し、商品開発に向けて取組み、初期段階ではサツマイモは干し芋加工を想定していましたが、加工法が簡易な焼芋スティックに変更し、14種類試作しました。黒豆は規格外品を活用して焙煎黒豆茶を6種類試作しました。試作品は組合員による試食アンケート調査(11人)を行い、評価を取りまとめ、次年度はサツマイモの保管方法を高湿から低湿に変えて、サツマイモの水分量を落とす必要があること等が確認できました。



②商品開発コンセプトの検討

消費者ニーズに基づいた商品開発に向けて、県の「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」を活用し、派遣いただいた農山漁村女性活躍支援アドバイザー(ブランディングアドバイザー)の助言を受けながら、自分たちの強みを整理するとともに、商品の企画やブランディングについて講義と助言を受けながら、顧客に提供できる自分たち“ならでは”の商品づくりについて協議し、売価原価設定やパッケージデザイン等、具体的な商品の「形」を組合員と一緒に検討しました。



○今後の活動に向けて

女性の視点からの活動により、売上の増加や経営の多角化にプラスの効果を及ぼすような魅力ある加工品の開発に取り組むと共に、試食会や試験販売の実施などに引き続き取り組んでいく予定です。

マルシェがきっかけ！販促・情報発信ツールを楽しみながら作る！

○氏名 阿武萩地域ステキ女子会
○所在地 萩市・阿武町



○取組のきっかけ

阿武萩地域ステキ女子会では、令和2年度から、「ステキ女子マルシェ」を実施してきましたが、令和7年度は地元企業とのコラボマルシェを女子会メンバー自らで企画立案、実現させることができました。

これをきっかけに、今後の販売促進、情報発信活動のツールとして「押し食材の簡単お惣ぱレシピ」と阿武萩地域ステキ女子会の共通シールの作成に取り組むこととしました。

○取組の内容

(1) 地元企業”まちの電気屋さん”とコラボでステキ女子マルシェを開催！

メンバーの持ち込み企画として、まちのでんきやさんの展示会において、ステキ女子マルシェを実施しました。

成約記念品としての農産物セットや、マルシェでの農産物・加工品販売など、企業との調整・打ち合わせや準備など役割分担しながら進めることができました。



【成約記念プレゼント】



【マルシェの様子】

(2) 今後の販促・情報発信強化のための共通シール・レシピ作成

コラボマルシェの成約記念品のプレゼントを詰め合わせる過程で、自分たちが作る農林水産物を「もっと知って、もっと買ってもらうための情報発信をしていこう」という声が出され、女子会共通シールと簡単レシピを作成することになりました。

阿武萩地域ステキ女子会の共通シールは、メンバーの意見を取り入れたデザインで仕上がり、今後のマルシェ等での販売時に商品に貼ってPRしていこう！と盛り上がっています。

レシピについては、メンバーそれぞれの「押し食材」を使った簡単レシピを持ち寄り、試食評価しました。パンフレットに印刷し、販促・情報発信に活用していきます。



【共通シール】



【女子会でのレシピ持ち寄り試食】

○効 果

女子会メンバーが主体的かつ積極的にマルシェ活動に取り組めたことで、メンバーの結束力も高まり、メンバーそれぞれの個性を生かした役割分担やお互いにフォローしあえる関係づくりが進みました。

コラボマルシェの実施については、「自分たちの農林水産物や加工品をPRしたい!」、そして「地元企業と一緒に地域を元気にしたい」という思いが明確になりました。

また、販売活動を通じて、農産物の価格について問題意識を持つなど、経営を意識するきっかけにもなり、情報発信ツールの作成など新たな取組につながりました。

○今後の活動に向けて

マルシェの取組は女子自身が主体性を発揮できる場面となっており、楽しみながら意欲的に取り組めるようになってきたことから、女子会活動がメンバーの経営発展に役立つよう、効果的な情報共有や情報発信について検討していきます。